



Development of the Asian LNG Market and the Role of Tokyo Gas

Michiaki Hirose
President
Tokyo Gas Co., Ltd.
Sep. 16, 2015

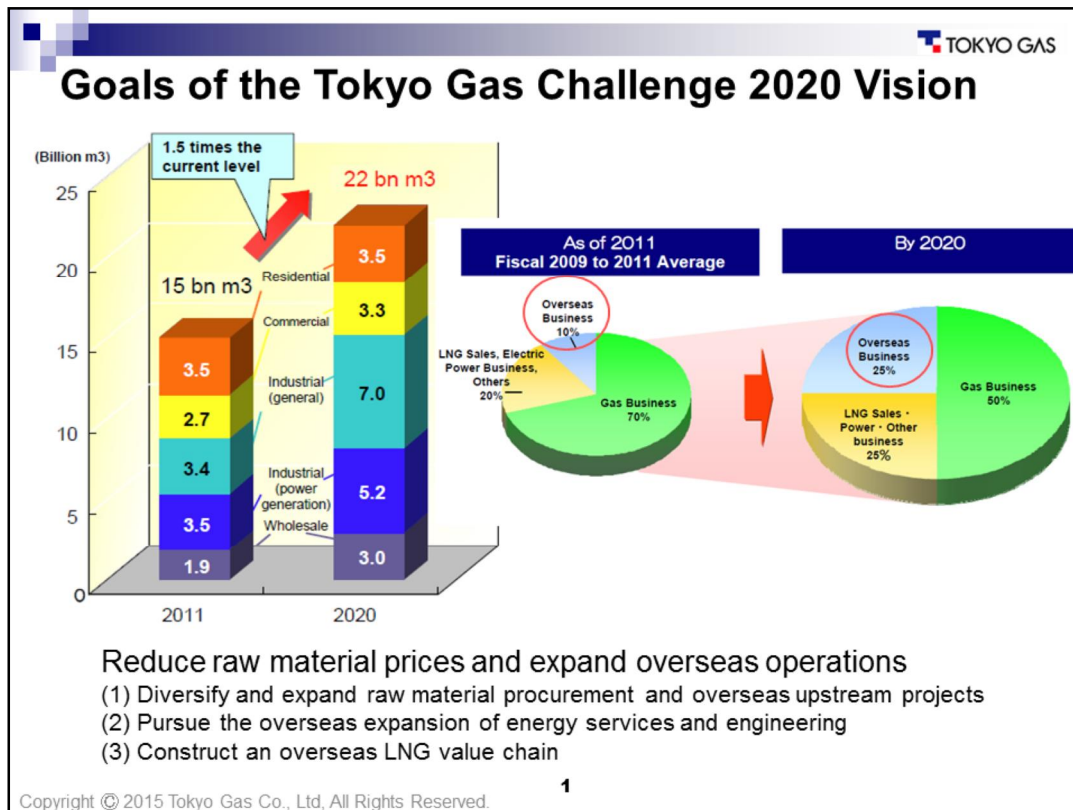


オープニング

東京ガスの広瀬でございます。

本日は昨年に引き続きこのような貴重な機会を頂戴し、誠にありがとうございます。

今回は、私ども東京ガスが取り組んでいる、日本国内はもとよりアジア全体での天然ガス普及拡大に向けた取組みについて紹介させていただき、アジア各国間および産消国間での協力関係の構築も含め、LNG産業の健全な発展に向けた方向性についてお話ししたいと思います。



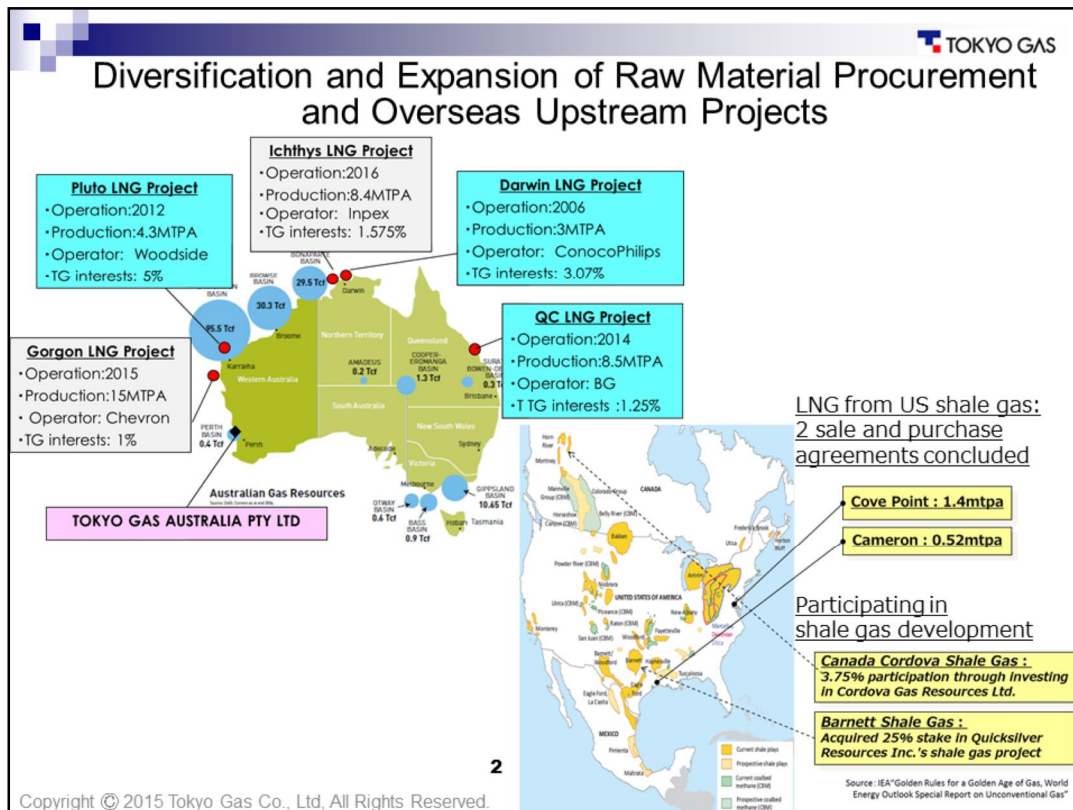
スライド1

最初に、天然ガス普及拡大に向けた弊社のビジョンについてお話いたします。

弊社は、「チャレンジ2020ビジョン」を2011年11月に発表し、2020年にガス販売量を当時の1.5倍の220億m3/年にし、事業利益の25%を海外事業から生み出すという目標を掲げ、需要拡大とともにLNGバリューチェーンの高度化を図り、グローバル展開を加速しています。

具体的には以下の3つの政策を展開してまいります。

- ①原料調達および海外上流事業の多様化・拡大
- ②エネルギーサービスやエンジニアリング事業の海外展開
- ③海外でのLNGバリューチェーン構築

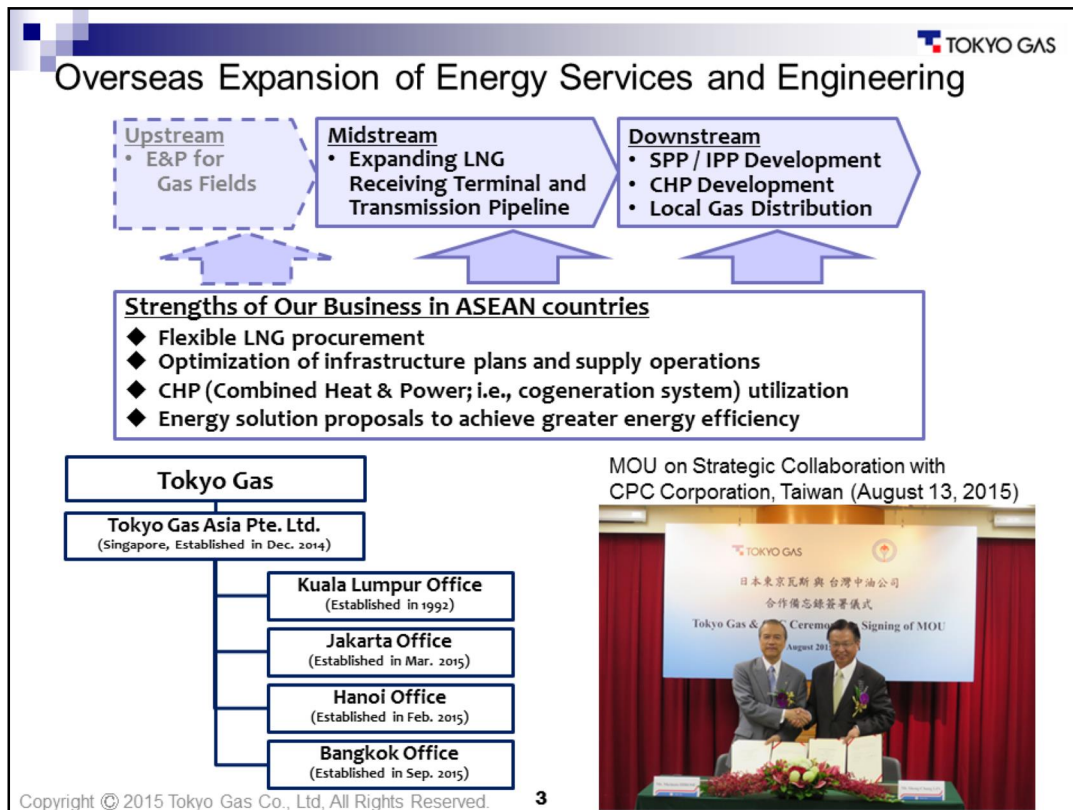


スライド2

原料調達および海外上流事業の多様化・拡大については、豪州に東京ガスオーストラリア、北米に東京ガスアメリカという現地法人を構え、本腰を入れて取り組んでいます。

豪州では5つの上流プロジェクトに参画し、調達を行います。既にダーウィン、プルート、クイーンズランド・カーティスの3プロジェクトからは調達を行っていますが、特にクイーンズランド・カーティスでは日本買主として初めてコールベットメタンを輸入する契約を締結しました。

北米ではコルドバ、バーネットのようなシェールガス開発事業に参画しつつ、2017年以降、コーブポイントやキャメロンからシェールガス由来のLNGをヘンリーハブ価格連動で調達します。米国シェールの輸入は多様化に大きな進展をもたらすでしょう。

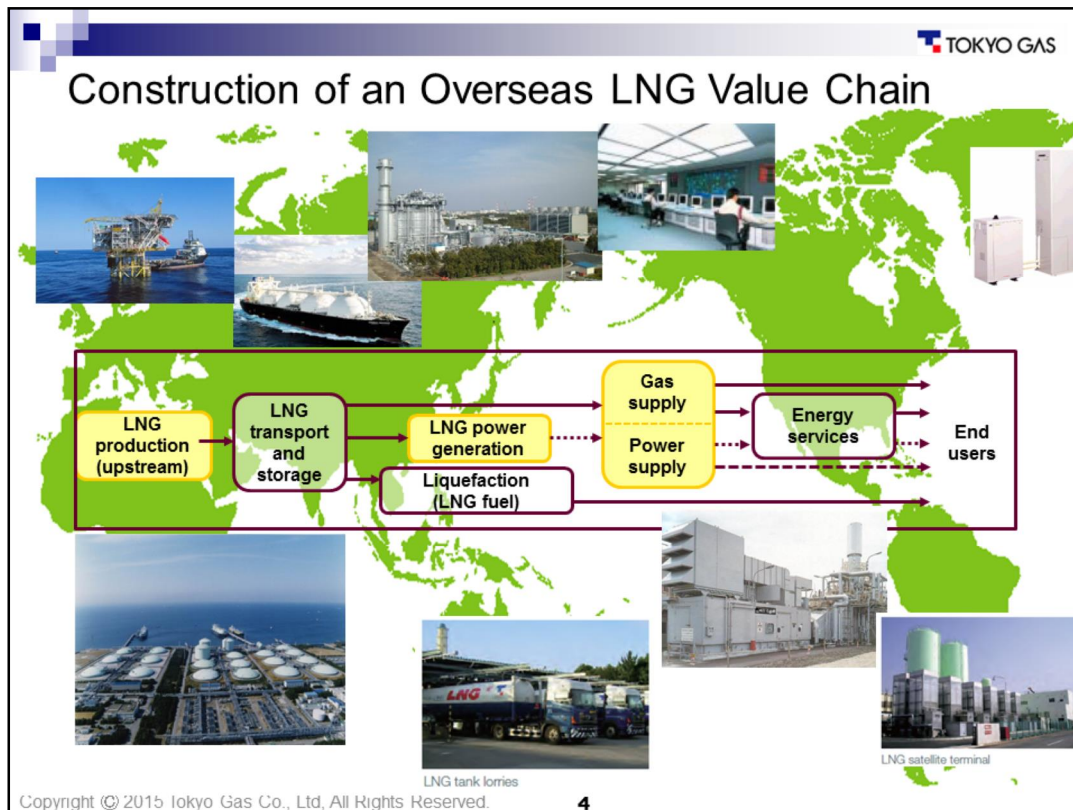


スライド3

一方、今後天然ガスの利用拡大が期待される東南アジアにおいては、LNGバリューチェーンの上流から下流にいたるエンジニアリングおよびエネルギーサービスを通じ、弊社のもつノウハウがお役に立てると考え、中下流事業を中心に事業展開していきます。

地に足のついた事業活動のためにも、2014年12月に東京ガスアジアをシンガポールに設立。2015年にはその傘下の拠点をベトナム・インドネシア・タイに新設しています。

また、ペトロベトナムや、KOGAS、プルタミナなどのアジア買主各社様と次々と戦略的協力関係を結んできました。そしてこの8月には、写真にある通り、ただいまプレゼンをされた台湾CPCの林会長と「戦略的相互協力に関する協定」を締結しました。今後、共同調達、カーゴスワップなどの調達面での協力や、基地建設やパイプライン整備、エネルギーサービスなどの連携を進めてまいります。

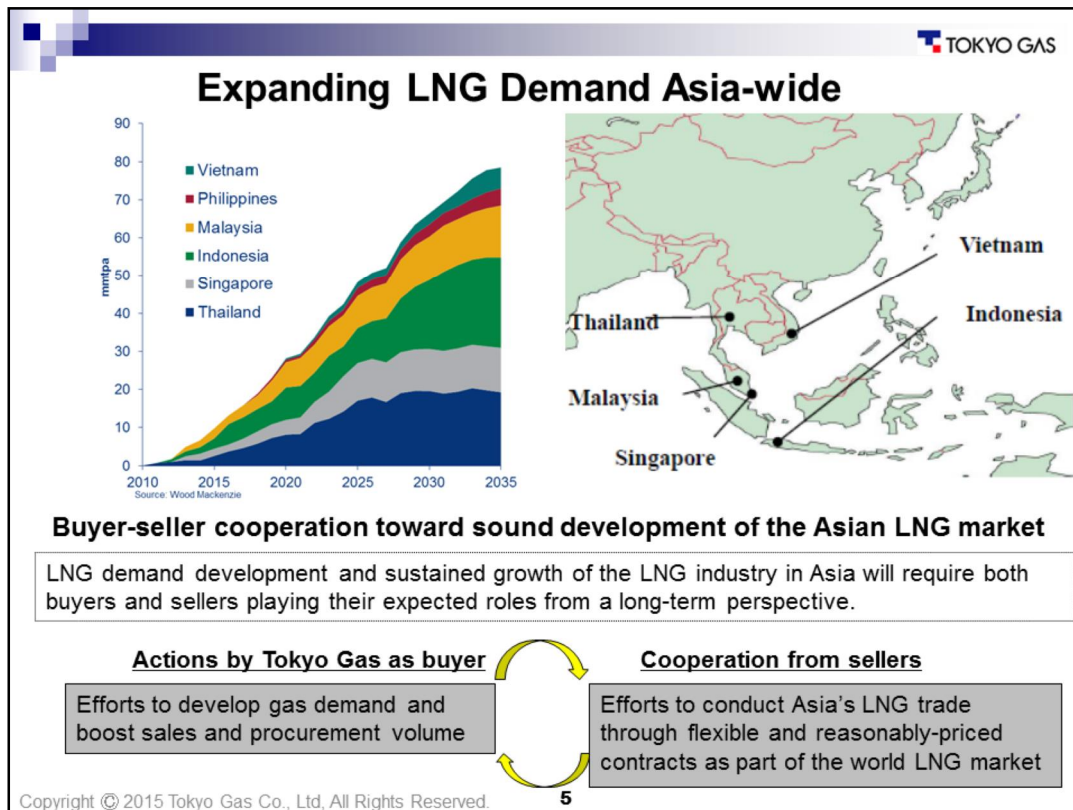


スライド4

このように、私ども東京ガスは、海外でのLNGバリューチェーン構築を進める中で、世界の様々な地域において、様々な分野でお役に立てる可能性があります。

特に、下流におけるエネルギーサービスやスマートエネルギーネットワークの構築などで力を発揮し、その地域のパートナーと協力しながら現地の需要拡大に貢献できるというのは弊社ならではの強みと自負しております。

そして、需要開発に合わせてLNGをご提供するというバリューチェーンの上流から下流までを網羅した全面的な支援ニーズにもお応えできます。



スライド5

振り返りますと、弊社はLNGのパイオニアとして45年以上LNGを扱ってきた経験とノウハウを持ち、天然ガスのトップランナーとしてガス需要開発への努力を続けて参りました。これからは、日本のみならずアジア全体での天然ガス需要拡大に努めていく所存です。

そのためにも、LNG売主の皆さまには、アジアのLNG取引をこれまでの形態にとらわれず、需要拡大を見越し、柔軟かつ低廉な契約としていく努力をお願いするものです。

売主と買主、双方が期待される役割を果たすことで、天然ガスの需要拡大が進み、長期的なWIN-WINの関係がつけられ、LNG市場の健全な発展をともに支えていけるものと確信しております。

ご清聴ありがとうございました。